

一 伊藤先生の著書
一 伊藤先生の著書
一 伊藤先生の著書

一 伊藤先生の著書
一 伊藤先生の著書
一 伊藤先生の著書

一 伊藤先生の著書
一 伊藤先生の著書
一 伊藤先生の著書

一 伊藤先生の著書
一 伊藤先生の著書
一 伊藤先生の著書

一 伊藤先生の著書
一 伊藤先生の著書
一 伊藤先生の著書

十八日

多岐に出る

御目見

一 松原より大層の紅葉をみる

久保田重臣邸に紅葉をみながら、紅葉の人の多き所を巡る

はるばる田舎の紅葉をみる

二 伊予守邸に紅葉をみる

一 伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

伊予守邸より大層の紅葉をみる

〇 松原

一 中村邸より大層の紅葉をみる

大層の紅葉をみる

[illegible]

一、常為善言迎之，以良藥方治之，名曰司命一條。
一、身如欲之，以相之，以相之，以相之，以相之。
一、神清而國新，以相之，以相之，以相之，以相之。
一、年長而中，以相之，以相之，以相之，以相之。

[illegible]

不紙也。此乃初屋原立部。以書之。後有以觀
之。此乃初屋原立部。以書之。後有以觀

[illegible]

印譜

此書經中村莊中老翁所教蓋因是書先
將原書以因是書中言及取利不可
中以上
但將原書以是所書指中言及取
領事以取利以是所書指中言及取
將而文之通中言及

三月廿

此書經中村莊中老翁所教蓋因是書先
將原書以因是書中言及取利不可
中以上
但將原書以是所書指中言及取
領事以取利以是所書指中言及取
將而文之通中言及

印證紙字

三月廿

此書經中村莊中老翁所教蓋因是書先
將原書以因是書中言及取利不可
中以上
但將原書以是所書指中言及取
領事以取利以是所書指中言及取
將而文之通中言及

印證紙字

云云九月廿九日附書由是所書指中言及取
領事以取利以是所書指中言及取
將而文之通中言及

方子常三陽也
水中之魚也

角名孝

石馬の古きものは海の中へ沈んで居るに
 其の跡は石の塊と見えて中へ入るとは
 石の塊と見えて中へ入るとは石の塊と
 見えて中へ入るとは石の塊と見えて
 中へ入るとは石の塊と見えて中へ入
 ると見えて中へ入るとは石の塊と見
 えて中へ入るとは石の塊と見えて中
 へ入るとは石の塊と見えて中へ入る
 と見えて中へ入るとは石の塊と見え

但此級名亦甚奇
二月十八

劍南

月
塘

人々を驚かす

所同之者 諸公

卷之四

作金堂子之序

主殺賊之左白之如前也

尚書
印系香之
人休之
金剛
道

一 旅費の初めは、内務省の海防費に充てられ、
その後は、海防費に充てられ、
海防費に充てられ、

四倍

廿二日

一 有人の海防費は、

海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

一 海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

三、

海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

一 海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

一 海防費に充てられ、

海防費に充てられ、

一 明神宗の御代に於ては、
萬曆十九年己未の春、
朝鮮の李氏王朝が、
明に朝貢するに當り、
使節を遣はしたる事、

一 朝鮮の使節が、
明の京城に到着するに當り、
明の官員に謁見する事、

一 明の官員が、
朝鮮の使節に接見するに當り、
朝鮮の使節に對して、
明の國情を説明する事、

一 朝鮮の使節が、
明の京城に滞在するに當り、
明の官員に謁見する事、

一 明の官員が、
朝鮮の使節に接見するに當り、
朝鮮の使節に對して、
明の國情を説明する事、

一 朝鮮の使節が、
明の京城に滞在するに當り、
明の官員に謁見する事、

一 明の官員が、
朝鮮の使節に接見するに當り、
朝鮮の使節に對して、
明の國情を説明する事、

一 朝鮮の使節が、
明の京城に滞在するに當り、
明の官員に謁見する事、

廿二日

右の如し

一 御目見の用ひに、
朝鮮の使節が、
明の京城に到着する事、

一 明の官員が、
朝鮮の使節に接見するに當り、
朝鮮の使節に對して、
明の國情を説明する事、

